

シマフクロウの森保全活動 「2009 年度植樹根室地区」 2012 年評価報告書

2012 年 9 月 26 日
環境プランナー協議会
恒藤克彦

■ 評価の対象と目的

公益財団法人日本野鳥の会が実施した「シマフクロウの森を育てよう！ プロジェクト」による森づくりで 2009 年に植樹された根室地区。植樹後約 3.5 年になる。

- ①生物多様性保全からみた環境負荷の把握が実施されている
 - ②保全活動の記録管理（作業日誌等による）が実施されている
- ことによって、保全活動の管理の履歴が適切に記録されていることを評価する。

■最近 1 年間のおもな工事

- ・ 2012 年 7 月 25 日、下刈工事

■ 実施した評価の概要

評価手続きの概要は以下のとおりである。

1. 環境負荷の把握のための作業日誌の閲覧
 - ・ 7 月 25 日に実施された下刈工事 作成：平成 24 年 7 月 30 日
2. 現地検分前書類確認
 - ・ 2012 年 9 月 6 日、日本野鳥の会西五反田事務所にて報告資料内容の確認と 5 年間の管理終了後の管理計画について確認した。出席者は小林豊室長、田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 竹前朝子氏。
3. 現地検分
 - ・ 2012 年 9 月 21 日実施。立会者は、日本野鳥の会 田尻浩伸室長代理、保全プロジェクト推進室 室野鳥保護区事業所 小畑拓也レンジャー、松本潤慶レンジャー。

■ 結論

結論は以下のとおりである。

1. 提供された情報の内容は、認定基準を満たしている。
2. 環境プランニング学会「森づくり・里山里林保全アセスメントの手引き」の基準により 98 点/100 点となり、昨年につづき「優良」と評価する。

■添付資料

- ・「2009 年度植樹根室地区」2012 年評価シート
- ・シマフクロウの森「2009 年度植樹根室地区」2012 年現地検分報告書
- ・植樹における環境負荷の把握 2009 年度 根室植樹地区 平成 24 年 7 月 30 日

以上

プロジェクト名 “The forest of the fish owl”プロジェクト

2009年度植樹 根室地区

作成者 恒藤克彦

作成日 2012年 9月 26日

承認者

評点合計	98 点/100点
------	-----------

1. 活動の概要				適合項目数 4	評点の平均値 5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容				
① 活動目的	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹によって森林生物が生息可能な森をつくる ・ 樹木を育成して、二酸化炭素を吸収する ・ 絶滅危惧種シマフクロウを救う 				
② 活動計画	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の管理作業を計画している ・ 100年後をめざしたイメージが作成されている 				
③ 活動地域	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡り鳥やタンチョウの生息地である国設鳥獣保護区風蓮湖畔に隣接した日本野鳥の会が所有する野鳥保護区 				
④ 実施主体者	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公益財団法人 日本野鳥の会 				
項目評価コメント		・ 5年間の管理作業移行の計画も考慮して、良好に維持されている。					
2. 在来種、従来種、原種管理				適合項目数 3	評点の平均値 5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容				
① 樹種選定種類、本数、産地、種の原産地	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に繁殖するミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、ケヤマハンノキの4種類 ・ 苗木100本/1区画、約170平方メートル（立ち枯れ等のリスクを考慮した植栽率） 				
② 樹種の地域植生との合致性（侵入性外来種、GMO：遺伝子組換体）	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗木の育成地は近隣の別海地区 ・ 仕入先は別海町森林組合苗畑 				
③ 苗木仕入先情報	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別海町森林組合 http://hokkaido.lin.gr.jp/sinrin/betukai/betukai.htm 				
項目評価コメント		・ 変更なく、良好に維持されている。					
3. 保全活動による環境負荷				適合項目数 2	評点の平均値 5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容				
① 苗木の搬入経路	否		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい植樹の実施はない 				
② 苗木搬入におけるエネルギー使用量	否		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい植樹の実施はない 				
③ 植え付け作業におけるエネルギー使用量	否		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい植樹の実施はない 				
④ 付帯作業における資材使用量	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月25日に下刈り作業が実施された ・ 資材の使用はない 				

⑤	付帯作業におけるエネルギー使用量	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2.2トン車 55.0km(別海～槍昔を往復)、1.4トン車55.0km(別海～槍昔を往復)、と適切に記録されている ・ 刈払機1台(使用燃料：混合)を3.0時間稼働、と適切に記録されている
項目評価コメント		・ 下刈工事を7月25日に3時間実施。環境負荷等の把握は適切に実施されている		

4. 付随的に発生する環境負荷の処置				適合項目数	2	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点	
評価項目	適否	評点	観察事項の内容							
①	廃棄物発生量	適	5	・ 下刈作業で発生したササ等は、刈払機によって細かく裁断されその場に放置するため、廃棄物の発生はない						
②	廃棄物処理	適	5	・ 廃棄物の発生はない						
③										
④										
項目評価コメント		・ 下刈作業で発生したササ等は、刈払機によって粉碎され、廃棄物の発生はない。								

5. 森、里山里林の健全度				適合項目数	5	評点の平均値	4.4	評点	18 点/20点	
評価項目	適否	評点	観察事項の内容							
①	日が差し込む明るい森	適	5	・ 西側が道路に面しており、天空は明るく開いている。						
②	植物の種類が多く、よく繁殖している	適	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケヤマハンノキは、ハンノキハムシの発生がなく葉色もよくなっている ・ ミズナラは枯死、欠損が多く発生しているが、ひこばえが出ているので、今後を見守る必要がある ・ 鹿による被害と、ネズミによる被害は発生していない。 						
③	鳥の種類が多く、さえずりがよく聞こえる	否		・ まだ、森になっていないので評価は否とする						
④	落ち葉が堆積し、土壌がスポンジ状でふわふわしている	適	5	・ 下刈作業で発生したクマザサが小さく砕かれていることもあって、10cm以上の土壌がある						
⑤	土壌に棲む生き物が多い	適	5	・ 豊かな土壌で、土壌生物も多く生息して良好である						
⑥	美しく、気分が休まる	否		・ まだ、森になっていないので評価は否とする						
⑦	一本一本の木が元気で、炭素の吸収が盛ん	適	3	・ 概ね順調に育っているが、枯死、欠損もあってばらつきが発生している。植樹3年目であり、今後を見守る必要がある						
⑧										
項目評価コメント		・ 鹿やネズミの害もなく、全体としては順調に成育している。								

総合評価コメント

- ・植樹から4年目となり、苗木は全体的に大きく成長している。今年は、ハンノキハムシの発生もなくケヤマハンノキの葉色もよくなっている。この地区での成長頭は、ケヤマハンノキで2mを超えるほどになっている。
- ・下刈作業が適切に実施され、よく管理されている。下刈作業の作業内容は、廃棄物の発生もなく「植樹における環境負荷の把握」シートに詳細に適切に記録されている。
- ・周囲の森とも調和のとれた森になることを期待する。

シマフクロウの森「2009 年度植樹根室地区」 2012 年現地検分報告書

2012 年 9 月 25 日 作成

環境プランナー協議会

恒藤克彦

検分実施日

2012 年 9 月 21 日(金) 10:00~10:30 天候：晴れ

現地検分同行者

公益財団法人 日本野鳥の会 田尻浩伸氏、小畑拓也氏、松本潤慶氏

1) 植樹地の概況

植樹から 4 回目の夏を過ごして、苗木は大きく成長し、緑が濃くなっている（写真①）。下草刈りは 2 回実施され、下刈りによるクマザサの碎かれた葉が厚く積もっており、地表面は良い状態である。シカよけネットには損傷がない。また、知床で発生したエゾヤチネズミによる樹皮食いの被害の発生もない。

写真①



写真② 周りは、明るく解放されている



写真③ 小さな花に蝶が舞う



2) 植樹された樹木の状況

ケヤマハンノキは、昨年発生したハンノキハムシの発生もなく、順調に成育している。生育のスピードが速く、写真のように2mを越えるものもあってこの植樹地区のトップの高さになっている（写真②）。

ハルニレは、大きな問題もなく順調に成育している。葉も大きくなった（写真③）。

写真② ケヤマハンノキ



写真③ ハルニレ



ヤチダモは、茎が太くなってたくましく生育している（写真④）。

ミズナラは、昨年の生育状況確認調査でも枯死が多く生存率は約50%であった。この環境に適合していないのかもしれない。しかし、ひこばえで育っているものは、葉も大きく元気である（写真⑤）ので、もう少し長期間の観測が必要と思われる。

写真④ ヤチダモ



写真⑤ ミズナラ

